

研究機関：広島大学

研究課題名：肺動脈肉腫摘出術の術中・術後管理の検討

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科 麻酔科 教授 堤保夫

研究期間 2021年8月23日倫理委員会承認後 ～ 2025年3月

対象者

2020年1月から2023年12月の間に、広島大学病院で肺動脈肉腫摘出術を受ける患者さん

意義・目的

肺動脈肉腫は1923年に初めて報告され、これまで約400例が主に症例報告として報告されています（Gen Thorac Cardiovasc Surg 2021; 69: 638-45）。肺動脈肉腫摘出術に対する麻酔を含めた術中管理法や術後管理法に関しては確立されたものではありません。当院ではこの2年間で2回の肺動脈肉腫摘出術の麻酔を経験しました。本研究の目的は、肺動脈肉腫摘出術の管理経験をもとに肺動脈肉腫摘出術の麻酔を含めた術中管理法と術後管理法を検証することです。これにより、今後の肺動脈肉腫摘出術の術中管理や術後管理が向上する可能性があります。

方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は患者背景（年齢、性別、身長、体重、ASA分類、病名、術式、心機能所見、画像所見、血液データ）、術中情報（手術時間、人工心肺時間、大動脈クランプ時間、麻酔時間、麻酔法、呼吸器設定、投与薬剤、血圧などのVital Sign、心機能所見、水分バランス）、術後情報（Vital Sign、水分バランス、処置の時間と内容、呼吸器設定、投与薬剤、心機能所見、画像所見、集中治療室滞在日数、入院日数、転機）などです。

（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

共同研究機関

ありません。

試料・情報の管理責任者